

暖房費30%超削減

温室イチゴ向けテープヒーター

冬は暖房費が大幅に増える。温床用テープヒーターを温室イチゴのハウス用で60万~80万円程度。県内のイチゴ温室で「紅ほっぺ」品種を使い実証試験中で、2013年度から農家用に販売していく。

中国工業がシステム 株元を最小限加温

新ヒーターシステムは、新立電機(山口県下松市)、山口県農林総合技術センター、徳山工業高等専門学校が協力を得て、開発した。

燃油価格の上昇で、温室栽培のイチゴ農家の経営は圧迫されている。イチゴ促成栽培は冬期にハウス内温度を8度~10度Cに保つことが必要。ハウス全体を温めてはコスト高になってしまうため、細いパイプ内に温

水を通したり、ニクロム線を株元に巻いて温める。局所加温技術も研究されている。ただ、これらは

IPの代わりに、精密機器部材用の高品質ステンレスをリサイクルした発熱体を用いる。イチゴの株元にテープヒーターを通してクリップで留め、温度センサーと温度制御装置の動作が必要箇所のみを通電し、株元を温める。イチゴの成長速度、

中国工業は「制御装置を1個、テープ2、3本に抑えた数十万円の基本セットも開発中」と、13年度のシステム商品化に向けてさらに価格を引き下げるとも、バラなど他の温室作物に対しても活用できるように、改良していく。



「潜在・顕在の開発力や商品力を引き出して認定テーマを決める。テーマは各社の強みそのもの」。これまで

「立川」ナラハラオートテクニカル(東京都八王子市、内野真治社長、042-625-671)は、炭素繊維複合材料の試作加工を始めるためにマシンングセンター

(MC)を導入した。投資額は1800万円、炭素系材料の売上高の10%程度に増やしたい考え。初年度500万円の売り上げを目指す。同社は社員3人、MC

2台の町工場。3台目としてオークマの立型MCを導入し、炭素系材料の加工に着手する。まずは産業用ロボットの部品などの顧客に、アルミニウムから炭素系素材への置き換えを提案していく。

寝具用「販売」

【浜松】ソフトプレ工業(浜松市西区、前嶋文明社長、053-449-311)は、12月をめぐり寝具用マットレス「ウオーターマット」の生産量を現在比2倍の月間2000枚に引き上げる。

国内大手寝具メーカー向けOEM(相手先ブランド)供給で、従来の医療用に加えて新たに一般用の供給を始めており、販売が好調なことがよくわかる。同マットレスの事業で2013年6月期売上高で前期比2倍の1億2

【立川】ナラハラオートテクニカル(東京都八王子市、内野真治社長、042-625-671)は、炭素繊維複合材料の試作加工を始めるためにマシンングセンター

同社は社員3人、MC

2台の町工場。3台目としてオークマの立型MCを導入し、炭素系材料の加工に着手する。まずは産業用ロボットの部品などの顧客に、アルミニウムから炭素系素材への置き換えを提案していく。

カーボン向けにMC増設

同社は社員3人、MC

2台の町工場。3台目としてオークマの立型MCを導入し、炭素系材料の加工に着手する。まずは産業用ロボットの部品などの顧客に、アルミニウムから炭素系素材への置き換えを提案していく。

FMBコンサルタンツ

「経営革新で海外展開支援」

「立川」ナラハラオートテクニカル(東京都八王子市、内野真治社長、042-625-671)は、炭素繊維複合材料の試作加工を始めるためにマシンングセンター

同社は社員3人、MC

2台の町工場。3台目としてオークマの立型MCを導入し、炭素系材料の加工に着手する。まずは産業用ロボットの部品などの顧客に、アルミニウムから炭素系素材への置き換えを提案していく。

「経営革新で海外展開支援」

「立川」ナラハラオートテクニカル(東京都八王子市、内野真治社長、042-625-671)は、炭素繊維複合材料の試作加工を始めるためにマシンングセンター

同社は社員3人、MC

2台の町工場。3台目としてオークマの立型MCを導入し、炭素系材料の加工に着手する。まずは産業用ロボットの部品などの顧客に、アルミニウムから炭素系素材への置き換えを提案していく。



「経営革新で海外展開支援」

「立川」ナラハラオートテクニカル(東京都八王子市、内野真治社長、042-625-671)は、炭素繊維複合材料の試作加工を始めるためにマシンングセンター

同社は社員3人、MC

2台の町工場。3台目としてオークマの立型MCを導入し、炭素系材料の加工に着手する。まずは産業用ロボットの部品などの顧客に、アルミニウムから炭素系素材への置き換えを提案していく。



不良品検証 精度アップ

「経営革新で海外展開支援」

「立川」ナラハラオートテクニカル(東京都八王子市、内野真治社長、042-625-671)は、炭素繊維複合材料の試作加工を始めるためにマシンングセンター

同社は社員3人、MC

2台の町工場。3台目としてオークマの立型MCを導入し、炭素系材料の加工に着手する。まずは産業用ロボットの部品などの顧客に、アルミニウムから炭素系素材への置き換えを提案していく。

外観検査機を改良 徳貞電機

「経営革新で海外展開支援」

「立川」ナラハラオートテクニカル(東京都八王子市、内野真治社長、042-625-671)は、炭素繊維複合材料の試作加工を始めるためにマシンングセンター

同社は社員3人、MC

2台の町工場。3台目としてオークマの立型MCを導入し、炭素系材料の加工に着手する。まずは産業用ロボットの部品などの顧客に、アルミニウムから炭素系素材への置き換えを提案していく。

「経営革新で海外展開支援」

「立川」ナラハラオートテクニカル(東京都八王子市、内野真治社長、042-625-671)は、炭素繊維複合材料の試作加工を始めるためにマシンングセンター

同社は社員3人、MC

2台の町工場。3台目としてオークマの立型MCを導入し、炭素系材料の加工に着手する。まずは産業用ロボットの部品などの顧客に、アルミニウムから炭素系素材への置き換えを提案していく。

「経営革新で海外展開支援」

「立川」ナラハラオートテクニカル(東京都八王子市、内野真治社長、042-625-671)は、炭素繊維複合材料の試作加工を始めるためにマシンングセンター

同社は社員3人、MC

2台の町工場。3台目としてオークマの立型MCを導入し、炭素系材料の加工に着手する。まずは産業用ロボットの部品などの顧客に、アルミニウムから炭素系素材への置き換えを提案していく。